



▲現在の鉄砲町

◀昭和30年ごろの鉄砲町付近(個人蔵)



この付近は、戦国時代の終わり頃、宇都宮氏が鉄砲鍛冶を住ませたことから、町名が付いたといわれています。江戸時代は奥州街道沿いの町人町であり、塗物師・絵師・鋳物師・表具師などさまざまな職人や商人が住んでいました。

鉄砲町は、当時、宇都宮一・二のにぎわいを見せていたバンバと、オリオン通りの間にありまして、まちには活気が溢れ、古くから続いていた家や老舗の店がたくさんありました。

最近では、まちなかで自転車の大会や音楽イベントなどが行われますので、まちなかにお越しの際は鉄砲町付近を散策してください。

また、日常生活に欠かせない魚屋・肉屋・酒屋などもありましたので、とても便利で暮らしやすいまちだったと思います。

昭和40年代には、娯楽の代表格だった映画館に替わって百貨店が開店し、多くの人が集まりました。現在では、生鮮食品や日用品などを扱う量販店が付近の住民の暮らしを支えています。

かつて、鉄砲町やバンバには多くの人が暮らし、人々の往来も盛んな、宇都宮の顔ともいえる場所だったと思います。時の移り変わりとともに住民は郊外へ転居してしまいました。



写真提供 フォトライフ

病気で左目の視力を失いましたが、5歳のときに通っている保育園を訪れ演奏してくれた高橋さんの音色に惹かれ「音がとてもきれい。やってみたい」と、自分からマリ

添野さんは3歳のときに病気で左目の視力を失いましたが、5歳のときに通っている保育園を訪れ演奏してくれた高橋さんの音色に惹かれ「音がとてもきれい。やってみたい」と、自分からマリ

次目標は「コンクールの時よりも良い演奏をすること」と言います。添野さんのお母さんも「賞を取ることだけでなく、これからも音楽を楽しんでほしいです。マリンバが、心が落ち着く癒しの時間になって、そして一生の友達になってくれたら」と話します。今回の受賞で一回り成長した添野さん。今日もマリンバの素敵な音色を奏でます。



宮の原小学校 添野 智恵美さん



てっぼうちよう 鉄砲町 現在の馬場通り2丁目辺り

古いまちの呼び名とこぼれ話を紹介します



曲師町 齋藤 高藏さん

はつらつ宮っこ

今、輝いている市民

優しく 素直で きれいな音色 人生初のコンクールで最高賞